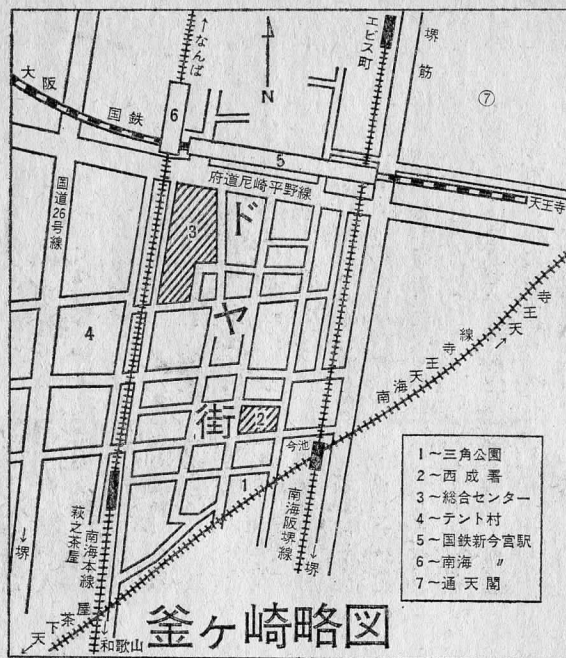




「アホなこと言うたら、人垣はふえたり減ったりしていた。そして、その新聞立売りスタンドから一〇メートルも離れていない太い円柱のぐりぐりに、牛乳、パン、軍手、タオルのささやかな店を張っている釜ヶ崎労働者生活協同組合の若ものたちに向って、「あんたらの同志かいな？」と世辞のように言う者もいれば、

「アホなこと言うたら、人垣はふえたり減ったりしていた。そして、その新聞立売りスタンドから一〇メートルも離れていない太い円柱のぐりぐりに、牛乳、パン、軍手、タオルのささやかな店を張っている釜ヶ崎労働者生活協同組合の若ものたちに向って、「あんたらの同志かいな？」と世辞のように言う者もいれば、

に不急の支出だ。
現にその朝もつと早く、私は朝めし代りのラーメン代の不足分二〇円を、顔だけ知っている以前の現場のなかに借りられていた。即席ラーメンの一つ玉六五円（四五円）、二つ玉一一〇円（六〇円）と、カッコのなかの旧価格とくらべればわかる通りの値上がりが求人激減と歩調を合わせて労働者を苦しめている

るのである。これにタマゴ一個を入れれば三〇円増しとなり、満腹感と気安めの栄養を考えればラーメン二つ玉にタマゴ一個が最低欲求になる。その最低を満たすために二〇円の借金を言わねばならぬ労働者が、三〇円の新聞を買うはずはない。
「ごっついことやりおるのう」「ようカネが廻るこっちゃ」こんな感想をもたらしながら、人垣はふえたり減ったりしていた。

らあかんで、コン人らはわしらのためにやってくれとる人や」
とムキなうって打ち消す者もいた。
牛乳とパンは二五円、軍手五五円というように、労働者生協の商品はたしかに安く、手配師もこっそり買いにくるほど人気はあるのだが、総合センター内にきちんとした店舗を設けることを認められない。
総合センターは一九七〇年一〇月に開設した建物で、それ以前の路上にあった労働市場を一階部分に吸収したほか、労働公共職業安定所（但業務は失業保険給付のみ）、労働福祉センター（求人・就労斡旋その他）、医療センター（総合診療と入院設備）、シャワー室、洗濯室、ロッカー室などがあり、喫茶室、めし屋、たばこ雑貨店などの営業もさせて、大阪府労働部の外郭団体である大阪勤労者福祉協会というのが管理に当たっている。



釜ヶ崎

'74—冬—春

「ゲタオチ」の日常を切開する

寺

島

珠

雄

(詩人)

ゲリラと生協

二月七日、日の出には一時間近く早い朝六時前、求人のもったくない釜ヶ崎の日雇労働市場へ総合センター一階の新聞立売りスタンドに、ちよっとした人垣ができていた。

クウェート駐在日本大使館がゲリラに占拠されたという大見出しが、スポーツ紙以外の一面トップへ縦横に置かれて人目を惹きつけているのだった。

「PFLP赤軍派と協力」(毎日)などと、ゲリラ側にも日本人が一枚噛んでいるらしいのが、一層関心を煽っているとよくわかった。しかし、かといって新聞が飛ぶように売れるのではない。

大体、釜ヶ崎ではまずスポーツ紙から売れるのが常道で、一般紙はたとえば前夜に暴動があったとき、三島由紀夫事件や連合赤軍事件のとき、あるいは滋賀銀行事件奥村彰子逮捕という程度でないとスポーツ紙より売れ足が遅い。

ゲリラに日本人が噛んでいても、人質が大使以下日本人を含んでいても、クウェートはどこにあるかも知らぬ国である。それに何よりも新聞の一部売り代金三〇円はアブレの朝

1974年4月
現代の眼

にている現状だ。

府労働部、あるいは民生部が労働者生協に
対して「御趣旨御もつとも」的な態度をみせ
ながら店舗開設を認めない背後には、労働者
生協の円滑な回転へ過激派資金源という
警察の示唆があるはずと観測されているのも
肯けることで、前例がないというのなら総合
センター開設も労働福祉センターの業務もす
べて前例がなかったのである。

国外のゲリラとの間がらについて「あんた
らの『同志』かいな？」と質問した労働者の
感覚にも、観測されている警察の示唆の影響
のようなものが作用しているよう。

地元の古物商としては大手で、次期市会議
員をめざしている自民党時岡正光派の『正明
タイムス』という新聞が、その辺の消息の一
端をこう伝えている(73・12
20付)。

「町を明るくする会は西成警察署より防犯課
長、防犯コーナー室長ら出席のもとに年末対
策懇談会を開催した。(中略)防犯コーナー室
長は、釜ヶ崎労働者引用者生協について
説明して法の定めに従って許可を受けている
ため、その後に来るものはこの地区業者を目
標に「悪徳商人追放」を強く打出して来るの

で……(後略)」

引用の不十分はもとの記事の不十分さのせ
いだが、労働者生協を警戒するムードは感じ
とれると思う。クウェート・ゲリラの朝も、
労働者ふうの扮装した警官がトランシーバー
を携行して生協の小さな店の周辺にいた。
「腹をたてるな／不平をいうな／ものを苦し
すな／笑顔でくらせ……」

警察が生協対策などをこーちするへ町を明
るくする会」というのは、こんな標語を印刷
配布している団体だが、これで労働者がハイ
ハイと従順になるとは自分でも信じていない
から、警察のこーちも受けたいのだろう。

いわゆる過激派であったかも知れぬ若もの
たちが、ただ釜ヶ崎へ「潜入」したのではな
しに、現実には労働生活を続けている体験から
生活協同組合の必要を感じるのはまったく自
然なこと、折角そうした実務実益を志しは
じめた萌芽を、育て助けることこそよほど
「防犯」的であろうと私は思うのだが、これ
では書生論にすぎないのか。

労働者生協は将来の目標として自営の食堂
からドヤの建設まで掲げているが、たとえそ
れが実現しても二万人から二万五〇〇〇人は

事ぶりの悪いのはクタオチ野郎という具合
に。

K屋がなぜクタオチと呼ばれるか。それは
約半年前のK屋の定価が語ってくれる。

その頃、K屋ではカヤクめし大六〇円、カ
レーライス大九〇円、白めし大五〇円、みそ
汁三〇円、やつこ豆腐四〇円だった。

カヤクめしというのは、ニンジン、ゴボ
ウ、コンニャクなど刻んで炊きこんだめし
で、醤油で味つけしてある。つまり何もおか
ずがなくても食える。従って安上りである。
カレーライスにしても同じこと。そしてあた
り前の白めしはカヤクめしと同量で一〇円
安く、おかずはみそ汁、やつこ豆腐ほかに三
〇円の生タマゴぐらいしか置いてないから、
この方も一〇円で腹ふさはしである。

こういうところが、幾品かのおかずを並べ
て三〇〇円ぐらいは使って食う店との比較で
クタオチと呼ばれる根拠だった。事実またK
屋には、よくよくカネに困った者でないと入
らず、入る時にはあたりを見廻して、知った
者に見られないよう気をつけるのが労働者の
見栄だった。

そんなK屋が、去年の暮れに一度、今年に

入って一月末にもう一度、定価を上げて、現
在は次の通りになっている。

カヤクめし大一一〇円、カレーライス一三
〇円、白めし大八〇円、みそ汁五〇円(ヤ
つこ豆腐と生タマゴは据置)

クタオチめし屋でも一〇〇円玉一個では足
らぬことになったわけだが、もちろん他の店
もそれぞれ値上げしているから依然として安
いことは安い。

変わったのは、のれんの前であたりを見廻し
てから入る労働者の見栄っぱりな姿が、ほと
んど消えた点である。値上げが店の格を上げ
たのではないにそうなのは、景気の悪
さが行き渡ったせいで、誰も彼も同じように
フトコロがさびしく、めし代をツメルのが恥
かしくなくなったのだ。

「K屋のめしで安いどころか……」

「しゃあないわな、クタオチやけどな」

こんなふうな労働者は言う。

凌ぐとは急場を切り抜ける意味である。
求人Ⅱ就労の激減した釜ヶ崎の現在、労働
者総体が凌ぎの季節で、それは冬から春へ

確実に継続する見込みだ。
『読売新聞』の二月一〇日の朝刊経済欄に次

いと推定されるオール釜ヶ崎労働者を迎え
られないのは明らかなのに、といまは言っ
ておきかない。

そして私は、もはや学生あがりとか学生く
ずれとかの形容を要しない、新しいタイプの
労働者になった若ものたちに、体験を創造的
な活動に展開して行く力を感じる。

労働者生協の設立にしても、若ものたちよ
りはるかに官庁受けがよく資金力もある全港
湾西成分会が着手するのがむしろ本筋と言え
たであろう。しかし現実には若い発想が先行
したのである。

クタオチめし屋の定価表

ラーメン代のことは前の章に書いた。
こんどはめし代である。

西成警察署の並び、釜ヶ崎銀座の西側にK
屋というめし屋がある。

クタオチで有名な店だ。

タケオチは桁落ち、つまり普通より一桁下
っていることで、この言葉はあらゆる物事や
人に対して使われる。

たとえば、仕事がつくってその割に賃金の
安い現場はタケオチ現場、口ばかり達者で仕

の記事があった。

「建設業界は資材の高騰、工事量の減少、資
金繰りの悪化から戦後最大の経営危機に見舞
われ、年度がわりの四、五月には大型倒産
も予想される。大阪建設業協会(竹中錬一
会長、加盟二百八十社)は公共工事の発注増加と
前渡金比率のアップなどを関係各官庁や自治
体に働きかける一方、資材価格の値下げを関
連メーカーに要請する……(後略)」

記事はあと五七行あるが、面白い見通しは
まったく出ていない。

大阪建設業界というのは全港湾西成分会の
ソーマン代(夏期一時金、モチ代(年末一時金)
の要求対象で、大阪府と相談して回答を出し
てくるが、去年のモチ代では要求二万円に回
答は四二〇〇円。五〇万円の八〇万円のとい
うボーナス景気にインフレ手当てまで出るサラ
リーマンとは比較にならぬその回答を分会が
呑んだのは、差し迫った年末年始に粘りきれ
ないからだだった。

協会はいわば、釜ヶ崎求人人の根源である。
そこが『読売』の記事の示すような動きをし
ているのは、例年の冬に落ちこんだ求人量が
新予算年度から上向くパターンが、今年にはな

「しのぎ」のさまたま

凌ぐ話をつづける。

求人減の苦しさを労働者はどう凌いでいるか。

私の親しい六、七人の労働者グループでは自主的な輪番就労をやっている。これはしかし、財布を一つにするまでの強い結合がないと到底できない。この六、七人は同郷出身というわけでもないのに崩れないグループで、持ちこたえている小規模業者の現場に交代で就労してカネを分け合っている。なかに競艇マニアがいてその資金もヒネリ出し、負けても笑ってすます仲だからいいのだ。無論儲かった時はそろって一杯である。

公的な凌ぎには失業保険があるが、日雇労働者失業保険は条件がきびしい。直前二ヵ月間に合計二八日就労して、それが雇った業者の手で失業保険手帳に証紙貼付で証明されていなくてはならない。便法に就労証明書の発行というテもあるが、いずれにせよ直前二ヵ月間に二八日就労して月十三日の保険給付という限度がある。求人Ⅱ就労減は証紙の貼付される数を少なくし、保険金受給資格はたち

が実測八・五ミリ程度の不良品で、もちろん設計通りではないそれを使わねば工事が進められぬ現場があったのだ。

そして、これは物交に持ちこむ余力があったからいいので、当用買いに頼る小規模業者では融資のつけようがない。ならば現場はストップする。労働者はいなくなる、というわけだ。

この状況に対応していたのが、前の章に書いた労働生協の若ものも含む暴力手配師追放釜ヶ崎共闘会議、略称釜共闘が設営した越冬テント村のメインスローガンである。

それはこうだった。

「大阪府は特別公共事業を起し、釜ヶ崎労働者に仕事を与えよ」

釜共闘はこのスローガンのもとに、府庁前すわりこみ、ハンストから府庁突入までやったが、報いられたのはいままでのところ機動隊の介入だけである。

しかし、業者団体である府建設業会すらも仕事よこせを要求する今日の段階なら、そこまで困難な時期になってきたという点で、あらたな展望が生れる可能性はないものだろうか。

まち失われてしまうのである。保険金額は一日一六〇円。

売血もある。献血一本になったように世間では信じているようだが、やはり血は売れるのだ。

大阪では城東区にあるミドリ十字が大体一日二〇〇人を限度に血を買っていて、採血四〇〇〇円で一四〇〇円である。採血者には粟おこし、ゆでタマゴ、紅茶などが支給され、赤血球は注入して戻される。釜ヶ崎の労働者の場合、比重検査に合格した大いの者が八〇〇〇〇〇円を売って二四〇〇円を手に入れていると思う。

バッテリーになる者もいる。

いま、一キロ当り二二、三円になる段ボールが拾い集めの主たる対象だ。しかし不景気だから競争者がふえているし、大きな商店などは自分でまとめてしまうのでいい嫁ぎにはならぬという。寄せ屋（仕切り場）に寝泊りさせてもらえば一日三〇〇円程度の下や代が浮くわけだが、そこまで専門化することを労働者はきらう。

病院へ入る者もいる。

大いの労働者が診察を受ければどこかに

内科的な疾患がある。それを悪く言えば利用

して、行路病者として入院してしまうのだ。

悪徳病院糾弾闘争が以前よりぐっと静かになっているのは、この現実を踏まえて病院の門を閉じさせぬ慮りであろうか。

アオカンⅡ野宿する者もいる。

七三年末、越冬テント村開設に先だった釜共闘の調べでは、釜ヶ崎全域でアオカンは六〇人ないし七〇人程度と言われた。おそらく、いまも同じくらいはいるだろう。集団的には三角公園、海道公園、総合センター南にそれぞれ焚火をして夜を明かす。衣類も顔も手足も煤と埃で黒いが、誰かが何かで都合つけたカネでよく焼酎の廻しのみをしている。これには凌ぎ屋という別名もあって、不景気でない時でも夜屋ともにゴロゴロブラブラという者はいらる。しばしば女もまじる。

二月一日、大阪は午後から降ったりやんだりの雪だったが、夕方の三角公園には焚火が三カ所、計二〇人余りがそれを取り巻いていた。

いままであげてきた幾つかの他に、もっとも常套的な凌ぎとして飯場行きがある。

飯場へは働きに行くのだから就労であって

凌ぎではないと言われそうだが、日雇労働を本来と心得る者にとっては、二四時間拘束される飯場へ行くことは急場凌ぎなのである。

飯場行きには一〇日、一五日と期間をきめるケースと、期間をきめないのと二通りあって、およそは実働一〇日の期間契約だ。期間満了日に賃金を受けとり、釜ヶ崎へ戻って少しゆっくり暮し、カネが尽きたらまた適当な飯場を探す。しかしこう不景気が定着すると、一応の住と食の保証がある飯場から出てくる労働者が少なくなるので、補充の募集が減っている現状だ。一日三五〇〇円／四〇〇〇円程度の賃金、そこから貸ふとんだなどコミで食費一日五〇〇円を引くのが相場だが、電灯代とか衛生費とか、別名目の差引をするところも多い。酒、タバコ、軍手など日用の品物は市価よりいくらか高く飯場内で帳面買いでできる。またフロ代などのために日にいくらか限度をきめた現金貸しもあるのが普通。

山一證券

一〇日ほど前に、何の工事かわからないが沖繩の飯場求人者がきていた。

こんなふうにして、各自の身に合ったやり方で労働者は不景気を凌ぐようとしているが、そしてそういう不景気ゆえについて労働者は弱腰にならざるを得ないのであるが、何よりも不合理なのは賃金が去年はじめてからほとんど上っていないことである。

ケタオチめし屋の定価ラーメン代に明らかに、釜ヶ崎も物価は上っている。ドヤ代も、例外に一四〇円などあるが大半は一畳の〈個室〉で三〇〇円以上になった。しかし労働福祉センター経由の求人は、日雇も飯場も四〇〇〇円を突破しない。

屋外で働く釜ヶ崎の労働者は、第一に天候に左右されるし、筋骨の疲労で休みも自然にふえるわけで、たとえ好況で仕事があっても平均的には三日に一日は休んでいた。つまり、月収とすれば決してよくはないのである。

それが、不景気に強いとされているとはいえず、このインフレ昂進下に賃金が据置かれていて不合理にいつまで堪えるだろうか。

労務供給專業の、あきらかに法に背いている求人業者が去年の秋ごろから、だんだん求

人バスを総合センターに入れなくなっている裏には、大衆的にそんな交渉をはじめられてはかなわぬというところもあるに相違ない。

彼ら求人業者は、総合センターから遠く離れた地点にバスを駐めて、顔づけという馴染みのおとなしい労働者だけを乗せて走り去る。それでいて書類上は労働福祉センターを経由したことになるっており、いわゆるヤミ求人と言われぬ逃げ道を作っている。

だが、要するにそれは路上求人なので、総合センターが二億四千万のカネをかけて作られたうたい文句には、路上求人を廃して総合センターに集中するということがあったのである。警察は道交法の側面から路上求人規制を常に言っていた。

いまはどうか。

路上求人は野放しである。

そして、分散させられた労働者は旧態依然の賃金で働かされている。

寄り場という、いささかの自発性を備えていた路上求人の場を、寄せ場という強制に転化させた総合センターには、労働者の集中取締りという表面化しない機能があつた。

しかし、それが同時に、労働者の集団化、

組織化、敏速な情報伝達にも有効なことを見て、こんどは散らし政策に変わったのであろうか。

「独語症」から春闘へ

私の友人に純然たるサラリーマンがいる。彼は毎朝、釜ヶ崎の玄関の一つである動物園前の駅から地下鉄で通勤している。その彼が、ごく最近私にこう言った。

「このごろ、道を歩きながらブツブツ言っている労働者をよく見ますよ、ずいぶんいますね」

彼の観察は正しいのであつた。

もともと、労働者にはひとりごと、演説、絶叫などの癖をもった者がいるにはいた。

それは、心をひらいて語るべき相手をもたず、一畳そこそこの部屋に寝る者が、やむを得ず身につけてしまう癖であろう。私はひそかにその癖を名付けて「独語症」と呼んでいた。

パチンコ屋の機械に向って、公園で、立ち飲み屋で、現場で、ドヤで、独語症の者に出会ったのは数知れない。

東淀川のある飯場では、寝言のようにして

五〇万円のボーナスがさして珍しくないときに四二〇〇〇円のモチ代をもらう者として、三万四以上、なかには八万円の要求を出しているという質上げ期に四〇〇〇〇〇一四〇〇円で血を売る者として彼らの独語は存在する。何故とも何ものも期待することなく。

私は、自分が数年前に書いた詩に少し手を加えたものを提出したい。

ガードには鳩
下に人間。
焚火のまわり
すわったり寝そべったり
つまり大晦日から元旦へ
二年越しのアオカン

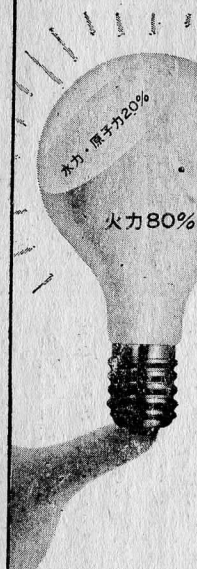
ここには、いわゆるカイコ棚式だったベッドハウスが大半消えて、ともかく個室システムになったこともあるだろう。カイコ棚式な

自分の半生を繰り返して語る者にも会った。そして最近、友人の観察通り、釜ヶ崎にはそういう独語症が目立って多くなっているのだ。

ギャンブル以外は飲む食う眠る働くがすべてのような日常を過している、いやおうなしに耐えなければならぬ浮世の風はある。ひそめてばかりいらぬ思いも湧く。それをどこへ発散すればいいのか。向けるべき相手はいないのが普通である。ひとりごとを言うしかない。つぶやきにせよ演説にせよ絶叫にせよ、だ。

ここには、いわゆるカイコ棚式だったベッドハウスが大半消えて、ともかく個室システムになったこともあるだろう。カイコ棚式な

電気をつくる主役は火力です



みなさまのご家庭にお届けしている電気の80%は、火力発電所でつくられたものです。そこで使われている石油は、ほとんど海外にたよっています。しかも、それは限りのある資源です。この貴重な資源を大切に使うためにも、電気をムダのないように使いたしましょう。

電力資源を大切にしましょう
東京電力

十と幾人か。

世間は
ガードを通過する電車。

そしてガードの橋脚を掘りコンクリしたの
はやっぱりその頃
煤けたやつらか。

作ったそいつら 仲間たちの代りに
ぶっこわしたってよからうさ なあ

橋脚を

ビルを

道路を

——を
——も。

ぶっこわしたら汗かいてあったまるが
道具はなし 腹あへってるし こうしてる
のが最高よ

ねじれめぐる話を

正月らしい風が引つさらって

みんな

小さくなった火に 寄る。

出来ばえはともかく、情景としてはこうい
う冬から春へ、今年、風の冷たさが変わらない
であろうとはすでに書いた。

春に、もし釜ヶ崎に活気のようなものが訪
れるとすれば、それは〈春闘〉のスケジュ
ールに組まれた交通ゼネストの実施が醸成す
るであろう。

たださえない求人はおそらく年末年始同
様のゼロ状態を呈すると思われる。求人業
者のバスは朝の迎えにはくるが、一旦現場こ
とに売ってしまった労働者の帰りを送っては
くれない。帰りは電車かバスである。だから
いままでも私鉄スト必至という場合には沿線
現場は帰りの保証ができないので求人をとめ
ていた。国鉄、私鉄、地下鉄、市バス、タク
シーがそろってストライキなら求人が絶える
のは目に見えていることだ。その時、釜ヶ崎
の労働者が味わうのは職と食の危機である。
大状況論理は説得力を持ち得ない。ましてど
んなに〈国民春闘〉スケジュールを眺めても、
釜ヶ崎、山谷その他、無組織の日雇労働
者への配慮はカケラもない。いやな言葉だが
完全に疎外されている。ならば疎外空間を埋

激動期の日本社会運動史
三宅正一 九五〇円 現代評論社

めるアプローチとしての行動は自由であろ
う。自分の作ったあれこれを破壊する手段さ
えもため労働者が、口の数だけの独語をしや
べり出す日があればと思う。

差別を連帯のバネに

釜ヶ崎はまさにルツボだ。

ここには世間の通念と別な形で朝鮮問題が
あり、部落問題がある。

求人専門ビンハネ業者には多くの在日朝鮮
人がいる。釜ヶ崎の労働者との関係では、在
日朝鮮人が支配の側にいるわけだ。もちろん
賃金をビンハネされる労働者としては、その
相手の国籍や民族にかかわりなく、不当な支
配を排除するために闘えばいいことだが、そ
う割り切ってしまうとところが折々に現わ
れてくる。

いわゆる部落は釜ヶ崎に近接していて解放
同盟の強い組織があるが、対立もない代りに
連帯も生じてはいない。

この稿の結びとして、西の釜ヶ崎に並ぶ東
の労働者街山谷との、両者相似の点をいくつ
か並べる。

(釜ヶ崎)

(山谷)

遊び場	新世界	浅草
元遊廓	飛田	吉原
元刑場	飛田にあり	小塚原にあり
皮革産業	隣接地域	隣接地域
車庫	霞町市バス車庫	南千住都電車庫
近くの寺	四天王寺	浅草寺
商店街	飛田本通	いろは通
新左翼	釜共闘	現闘委(悪徳業者追放)
公園	三角公園	玉姫公園(現場闘争委員会)
女	過少	同上
中心	霞町交差点	泪橋交差点
朝の露店	三角公園で	玉姫公園で
祭礼	今宮戒	鷲神社

香りの名作



ティーバッグで手摘みの高級茶を
ハイブレンッドしたのはブルック
ボンドだけ。このちがいがあなたの
ティータイムに深い満足をおとど
けます。飲みくらべてください。
香りがかつティーバッグの名作です。

世界でいちばん飲まれている

ブルックボンド
紅茶

輸入発売元 三菱商事株式会社